

平成27年5月22日～24日

坊がつる讃歌に碑められた九重連山を歩く

知らないこと以外は何でも知っている、我こそそのしり博士(ケペル先生)と豪語の隊員集合

先発テント泊の姉さんと本日の宿泊先法華院温泉山荘で合流



空路福岡から高速バスで長者原登山口から、『坊がつる』をししゃも、いやめざします。



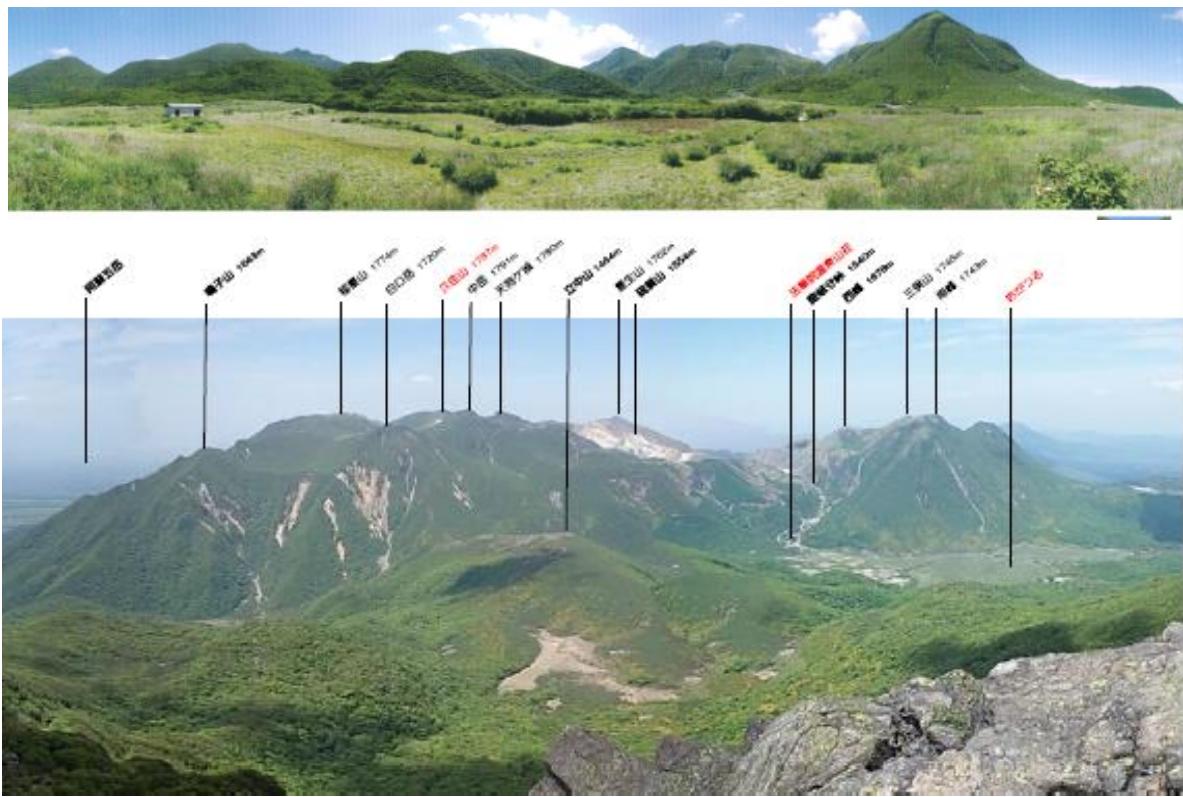
地名に玖須(くず)、九重(ここのえ)、久住(くじゅう)とあり、読み方苦渋の選択



坊がつる贊歌

作詞／松本
梅木
草野
一人
仙史
作曲／竹山

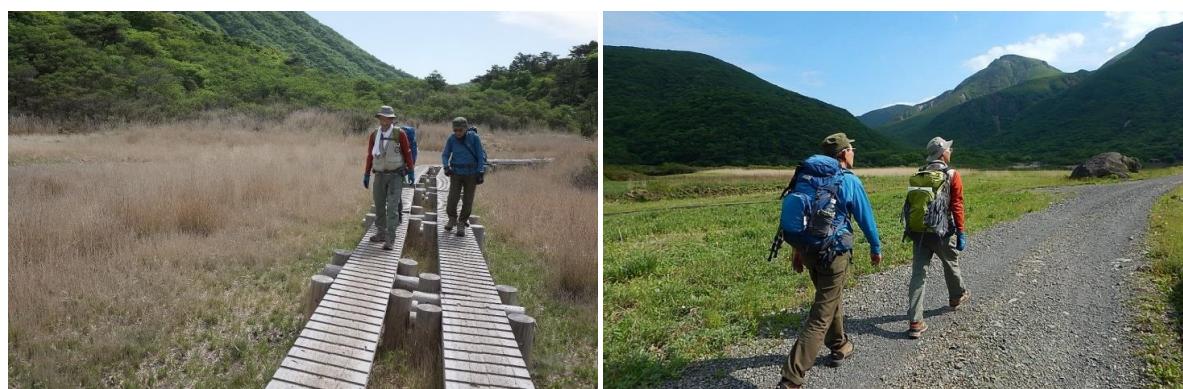
- 一 みな花に酔う時も
残雪恋し山に入り
涙を流す山男
雪解のきげの水に春を知る
- 二 石楠花しやくなげ谷の三俣みまた山
花を散らしつ蔵分けて
湯沢のざわに下る山男
メランゴリーを知るや君
- 三 ミヤカキリシマ咲き誇る
山はピンクに大船たいせんの
段原だんばる彷徨さまよいう山男
花の情を知る者ぞ
- 四 四面山なる坊がつる
夏はキヤンブの火を開み
夜空を仰ぐ山男
ものがあわれを知る頃ぞ
- 五 深山みやま紅葉に初時雨はつしぐれ
暮雨滝くらさめだきの水音みなおこを
佇たたずみ聞くは山男
無我を悟るはこの時ぞ
- 六 町の乙女ら思いつつ
白銀しろがねの峰思いつ
尾根の処女雪立てては
久住くじゅうに立つや山男
浩然の氣は云いがたし
夢に久住くじゅうの雪を蹴る
- 七 白銀しろがねの峰思いつ
今宵湯宿に身を寄せて
闇志こしに燃ゆる山男
一夜ひととよを想う山男
星を仰ぎて明日を待つ
- 八 出湯いでゆの窓に夜霧来て
せせらぎに寝る山宿にて
一夜ひととよを想う山男
峰を仰ぎて山男
今草原の草に伏す
- 九 三俣の尾根に霧飛びて
平治ひいじに厚き雲は来ぬ
峰を仰ぎて山男
峰を仰ぎて山男
今草原の草に伏す



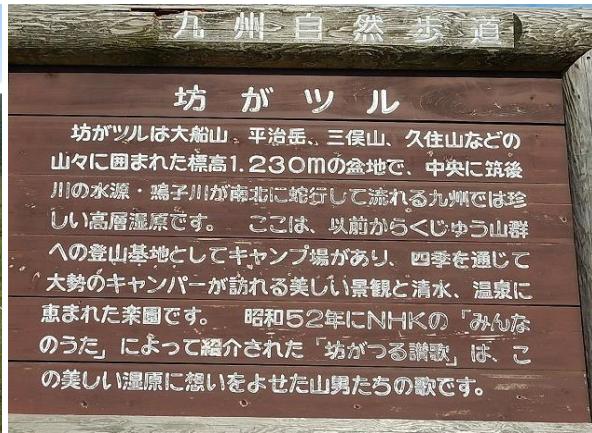
長者原からの岩場を抜け雨ヶ池、坊がつるに出ます



金曜なのに木道わたり、大人なのにじやり道を行く



右手に棒、左にツルを持ってと言われましたが(受けねえじゃないの)



ミヤマキリシマは今は1～三分咲、10日後に満開



本日の宿泊先法華院山荘にて



2階の寝室から姉先生に朝5時30分撮影と手を振って見送られ大船山へ



360度パノラマ大船山頂上



法華院山荘で荷物を持って目指すは久住山(天気予報12時～雨)



前回神津島裏砂漠を彷彿させる自然の世界に茫然



雨となりました、インディアンと天気予報うそつかない、



『姉さんお先にどうぞ』最初に昇って外された経験から私(深谷)ははしごは最後にのぼります



久住山頂上は大船山頂上とパノラマ甲乙つけ難し



牧ノ戸登山口から竹田さん待つ熊本へ



竹田さん、10月お別れ会の旗との再会、感激もひとしおと旗



翌日は熊本城、水前寺公園を案内していただきました



上から『たけもん』『いえもん』『ふかもん』『ひでもん』そして下『ふるもん』嫌われ『あねもん』不在

